

# 原町区保育所父母の会連絡協議会 ふれあい懇談会会議録 (第2回)

開催日 平成 29 年 11 月 7 日(金)

19 時 00 分から

開催地 よつば保育園 ホール

参加者 14 名

---

## 【質疑】

### 【質問 1】

子どもの具合が悪くなった際、市内の医療機関において検査キットがないので診ることができない。また、夜間救急で受診を断られ各医療機関を転々とした後、相馬公立病院や相馬市内の小児科医院を紹介されるなど、何度か大変な思いをした。

また、市内の夜間救急では、小児科医が居ないとの理由で断られたこともあり、本来の夜間救急としての役割を十分に果たしているのか。

さらに、市立総合病院の診療時間についても午前中だけではなく、午後も含めて幅広く対応してもらえないか。

次に、テーマ 1（医療問題：市立総合病院の診療時間）については、父兄のアンケート調査結果を見ると、夜間救急に関しては止むを得ないという意見もあります。また、現実的には夜間救急の問題も同時に解決するのは難しいので、せめて午後診療だけでも実施（小児科がベストだが、または内科も可）することができないか。

また、当院では、民間の医療機関に配慮し、午後診療はやらないと聞いているが、現在、原町区では駒場内科医院や平田小児科医院が閉院し、上町クリニックが小高区に戻った状況から、当院が午後診療をやるべき状況ではないか。

### 【回答 1】

市立総合病院では、二次医療機関として、外来とともに入院機能もあるため、基本的には午前中は外来、午後は入院患者の回診や手術等を行っています。

また、電子カルテを導入し業務の効率化を図っていますが、診療科によっては、午後 4 時頃ごろまで診察をしている状況です。小児科についても午後に予防接種や定期健診の業務もあり、現行の 2 名体制では午後診療は難しいところです。

なお、ご指摘のあった当院と医師会との関係は事実ではありますが、午後診療については、現在の医師数や患者のニーズ、院内の勤務実態等を踏まえ、引き続き検討してまいります。

## 【質問2】

テーマ1（医療問題：市立総合病院の診療時間）について、市立総合病院の小児科医が対応マニュアルを作成しているとの説明があったが、今後、当該マニュアルを使って受付や診療、電話対応など、どのように活用する考えなのか。

## 【回答2】

当該マニュアルについては、救急や夜間対応の際に注意すべき点や処置方法等を記載し、当直医が使用する予定です。

なお、医師によるファーストタッチは重要と考えますが、患者の症状によっては相馬公立病院への紹介も止むを得ないと考え、当該マニュアルを作成しています。

## 【質問3】

昨年、市立総合病院に伺った際、当時流行していたウイルスについて、相馬公立病院にしか検査キットがないと言われた。

このような流行性のウイルスに対し、当院では、適宜、検査キットを導入していく考えはないのか。

## 【回答3】

検査キットについては、昨年であればRSウイルスなどが考えられますが、改めてどういうものか院内で確認します。

また、別の医療機関への搬送も含め、検査キットで患者の症状を確認したうえで、速やかに処置することが望ましいと考えます。

## 【質問4】

夜間救急や入院の関係もあり、市内の子育て世代では、外来も含め相馬公立病院を利用している方が多いと思うが、市立総合病院の外来者数はどのくらいか。

また、当院については、民間のクリニックと同じく医師1名で外来対応をしております、夜間救急や入院機能を持たないのであれば、小児科を置く必要性はあるのか。

## 【回答4】

市立総合病院全体では平成28年度1日平均320名。小児科では同年度1日平均22名、平成29年度上半期1日平均26名であり、増加傾向にあります。

小児科については、相馬市では相馬公立病院に加え、小児科専門医のクリニックが3軒ありますが、市内では1軒もありません。また、内科とは異なり特殊な面もあるため当院では県立医大による医師派遣も含め、小児科の必要性はあると考えます。

なお、市内では小児科専門医がいないとの説明があったが、大町病院には1名の小児科専門医がおり、市の定期健診時には診察をしています。

#### 【質問5】

屋内の遊び場について、距離的な関係もあり原町区に同施設があれば良い。また、以前の懇談会で、市から予算的なこともあり原町区に同施設を作ることは難しいので、中央図書館内にある遊べるスペース(0歳児～2歳児)を利用してはとの話があった。

なお、当該スペースでは、2歳児より大きい子どもたちが利用するのは難しいので、同館の空きスペースを使って、0歳児から低学年の子どもたちが利用できる場所を作れないか。駐車場も十分あり図書館利用も含め利便性が高いと思います。

また、南相馬みんなの遊び場については、かしまわんぱく広場の駐車場をご利用くださいとのことだが、雨が降った際に小さな子どもを連れて移動するには距離もあるため不便さを感じます。

#### 【回答5】

南相馬みんなの遊び場については、市がTポイントジャパンから寄贈を受けた施設であり、当時、鹿島区には子供たちが遊べる施設がなく、子育て支援センターも再開できる見込みもなかったもので、現在の場所に設置したところ。また、原町区に同施設を作ることは難しいので、既存施設をご利用いただければと思います。

当該遊び場については、隣接するかしまわんぱく広場や三日月不動尊の駐車場をご利用いただき、皆様にはご不便をお掛けしていることは重々承知しておりますので、今後、対応策について検討してまいります。

中央図書館の空きスペース利用については、担当する教育委員会事務局とも協議、相談してまいります。

また、中央図書館の既存スペースについては、2歳児以上の子供たちが利用することは難しい状況ですが、同館内にある情報交流センターを利用できないか、内部でも検討したうえで、改めて回答します。

「南相馬みんなの遊び場」の雨天時における駐車場からの移動については、利便性を高めるための方法を検討しております。(12月28日追記)。

#### 【質問6】

わんぱくキッズ広場のふわふわドームについて、6歳児以上の子供たちが利用すると、小さな子供たちが遊べなくなってしまう。小さな子供たちも自由に遊べるように

エリア分けできないか。

また、同キッズ広場については、全天候型だが風が強いときに雨が屋内まで入ってくるので、かしまわんぱく広場のように風雨を遮るようにできないか。

### 【回答6】

わんぱくキッズ広場のふわふわドームについては、小さな子どもたちも自由に遊べるよう注意喚起の張り紙を掲示していますが、土日等の混雑時には余り効果が見られないため、引き続き、改善策を検討してまいります。

また、かしまわんぱく広場については、同キッズ広場の問題点等も踏まえ、作った施設ということもあり、同キッズ広場の問題点等を改善した施設になっています。

ふわふわドームは、「小さいお友達のそばでは高くとびはねないでね」と注意を促す張り紙をしております。今後も張り紙等で注意喚起をしながら、対応してまいります。(12月28日追記)。

### 【質問7】

風雨が強い場合の寒さ対策として、かしまわんぱく広場での経験を生かして、わんぱくキッズ広場の施設改善や風雨の侵入を防ぐための対策を講じることはできないのか。

### 【回答7】

わんぱくキッズ広場の大規模な改修等は難しいところです。また、同広場のカーテンについては、耐久性の問題があり風速7, 8m以上の場合は使用することが難しいので、安全性の観点からご理解をいただければと思います。

### 【質問8】

第1子と第2子が別々の保育園に入園したという話を聞いた。お母さんたちが働く時間を減らし、休みを多く取らなければならない、本末転倒ではないか。

### 【回答8】

市では、別々の保育園にならないよう調整をしています。なお、年度途中で同じ園内に空きがない場合、保護者の同意の基で他の保育園に入園される方もいます。

また、様々な選択肢を示すことができれば一番良いが、なかなかそういう状況でもなく、その中でわずかな可能性でも皆様が納得できるものがあればと考えています。

**【質問 9】**

保育士職員の採用について、少しずつ成果が出ているとのだが、上手くいっている事例はあるのか。

**【回答 9】**

市では、今年度から県外の保育関係の大学等を訪問し、保育士を目指す学生たちの生の声を聞きながら、情報収集に努めています。また、その中で、学生たちは単に給料面での保障だけではなく、実習期間も含め働きやすい環境を求めていることがわかってきました。

また、市では、震災により多くの子供たちが避難したことで、民間の事業者から公立保育園を開けないでほしいと要請があり、再開しなかった経緯があります。その後、子どもたちが徐々に戻って来た中で、保育料の無料化措置も相俟って、民間の保育園だけでは受入れが難しい状況にあります。このため、公立保育園の開所に向けて、本年度から県外の保育関係の大学等へのリクルートを行うなど、保育士確保に努めてきた結果、保育士12名を採用できる見込みです。しかしながら、未だに人員的に十分とは言えませんので、引き続き努力してまいります。

保育料の無料化については、第1子目から無料としている自治体は、県内では本市と中島村だけです。今後とも保育士確保のため、保育関係の大学等へのリクルートに加え、月額7万円上限（事業者による借上宿舍1カ所）のアパート賃貸補助等の支援を続けてまいります。

小児科医不足や夜間救急の問題については、引き続き県立医大の協力も得ながら、医師確保に努めるとともに、市独自で5,000万円を上限とした地域医療提供体制整備補助金を続けてまいります。

なお、地域医療提供体制整備補助金については、市独自の制度で市内において新たに診療所を開設する場合の経費を最大5,000万円（補助率1/2）補助するものです。しかし、現在のところ該当するところがない状況です。

医師不足については、本市のみならず全国的な問題であり、そう簡単には解決できないところですが、単に待っているだけではなく、積極的に県医師会を通じた取組や個別に案内等を行うとともに、次年度に向けては制度の見直しも検討してまいります。

**【質問 10】**

保育関係の大学等を訪問する中で、学生たちが働く環境の充実を求める一方で、不安に思っていることはありますか。

### 【回答 10】

市では把握していませんが、保育実習することで自らの向き不向きを判断される場合もあるようです。

また、市内高校から保育系の学校に進学する方は毎年20名程度います。そのうちの半数が地元で就職すれば、若者の帰還促進にも繋がりますし、個人としても親元から職場に通うことで経済的な負担軽減にも繋がる。このような視点も持ちながら、民間の保育園とも連携しながら、保育士確保に向けた活動を続けてまいります。

### 【質問 11】

震災前と比較し、保育士の数はどのくらい違うのか。

### 【回答 11】

震災前の市人口は、71,500人で高齢化率は26%でした。現在の居住人口は54,000人超で高齢化率は33%を超えています。また、震災前は高齢者も含め女性が男性より5,000人多かったが、現在は女性が全体では3,000人以上少なく、そのうち64歳未満の女性が2,000人以上少ない。このため、市内では女性が働く場が圧倒的に不足しています。ヨークベニマル旭町店やフレスコキクチ大木戸店では女性労働者が少なく再開ができない状況です。また、各スーパーにおいて自動レジの導入が進んでいますが、効率化の問題ではなく働き手がいないことが導入の背景にあります。

また、市では、保育料の無料化や看護師の修学資金の全額無償、介護職員の初任者研修の無償化、タクシー会社運転手の2種免許取得の半額助成など、女性の有資格者確保に向けた各種取組を進めているが、なかなか人材を確保できない状況もご理解いただければと思います。一方で逆の言い方をすれば復興が進んでいるから需要が増している状況もあり、互いの矛盾の中で一つ一つの問題をどのように解決するか悩みながら取り組んでいる状況です。

公立保育園の保育士(嘱託職員含む)については、平成22年度は137名であり、平成28年度は63名となり、震災前と比較し半分以下となっています。

### 【質問 12】

市内では女性や若者が少ない。現在、市内の保育園は定員が一杯だが、今後、あと数年で止まってしまうのではないか。また、現在は保育園の間口が狭いので待機児童が発生しているが、未就学児については、震災前と比較し6割に届いていない。

今後、5年から10年先を見据えると大変厳しい状況ではないか。今後の生産年齢人口に繋げるためにも未就学児を増やしていく対策が必要ではないか。

## 【回答 12】

小中学校については、7割強まで戻っているが、未就学児についてはおっしゃるとおりです。我々としても先細りのままで良いわけがない。最低でも元通りの水準まで持っていきたい。団塊の世代の高齢者はこれから急激に減ってきますので、今後30年後の南相馬市や相馬地方全体を見据えた経営が必要になっています。このため、市ではロボットテストフィールドによる新たな産業創出や若者を定着させるために鹿島区南海老地内に植物工場を設置し、市農業チャレンジ塾の塾生たちが中心となってひばり菜園を立ち上げ経営しています。また、当園では約50名を超えるパート労働者を雇用できる状況になっています。このように若者にとっては、安定して働く環境と子育てができる環境がないと定着することができないと考えています。

また、小中学校では、ペッパーを使ったプログラミングや電子黒板によるICT教育の導入、ドローン教室等を行い、小高産業技術高校ではさらなるスキルアップを目指します。さらに小高区内での無人自動車走行やロボットテストフィールドでの空飛ぶ自動車など、新たな南相馬市の魅力アップに繋げる様々な施策に取り組んでいます。

市外から若者を呼び寄せ、移住・定住を促進させるためには、安価で住居を提供することができ、可処分所得が得られる環境を作っていくことが重要です。さらに魅力アップを図るためには、本日のテーマである子ども産んで育てられる環境を整えることが必要と考えています。

しかし、我々だけで解決できる問題ではありませんので、皆様とともに解決に取り組むことが何よりも効率的であり、国等に対しても南相馬市として強く訴えかけることができます。そういったことも含め、この場で議論できればと考えます。

## 【質問 13】

原町区萱浜に医療系の学校を建設したと聞いたが、いつ開校しますか。また、保育士系の学校を誘致する考えはありますか。

## 【回答 13】

双葉准看護学院については、双葉町内での再開が難しいことから、国・県の協力を得ながら、本年4月に原町区萱浜地内で仮設校舎として再開しました。また、本市に保育士系の学校を誘致することについては、震災や原発事故に伴い県立高校等の定員が大幅に下回っている状況の中で、新たな学校を誘致し、開設することは大変厳しい状況です。

また、市では、今年度から厚生労働省に市職員1名を派遣し、国による待機児童対策のノウハウ等を学び、先進的な取組を本市に取り入れるなど、市としても子育て環境をつくる、とりわけ保育に関しては力を入れて取り組んでいます。

**【質問 14】**

厚生労働省に市職員 1 名を派遣し、具体的にどのようなことをやっているのか。また、そのノウハウについては、民間の事業所にもお伝えいただきたい。

**【回答 14】**

厚生労働省では、全国的な課題である保育士確保対策を担当する部署に市職員を派遣し、関係する補助制度の創設等の業務を担っています。派遣期間については、2 年間で、本市に戻った際は、そのノウハウを民間の事業所も含め、生かしていきます。また、派遣期間中であってもご要望等があれば、適宜、派遣職員に伝えます。

また、本市では副市長をはじめ、総務省、経済産業省及び農林水産省から国職員が派遣され、本市からは経済産業省、農林水産省及び厚生労働省に市職員を派遣しています。国に市職員を派遣する経緯は、震災直後、市が国と直接やり取りするケースが多くあり、極めて厳しい状況がありましたが、副市長や経済産業省からの派遣職員により大変助かりました。現在は、南相馬市のことが国にピンポイントで通じる関係が構築できています。震災前は、市から県、県から国に上げるような調整をしていたので、時間が掛かるばかりで解決しないこと多くありました。また、現在、南相馬市の復興アドバイザーとして、中央省庁の事務次官経験者等にお引き受けいただき、その相乗効果が発揮されていると感じています。

**【質問 15】**

はじめてふれあい懇談を開催してから 6 年が経過し、毎回、小児科医師不足については、議論になっているがなかなか解決に向けて答えが出ていない。

我々も市にお願いするだけでなく、例えば我々も小児科医誘致に関する陳情に同行するなど何らかの関わりを持ちたい。離島ではないが、島民を挙げて医師を熱烈歓迎するような熱意がなければ実現が難しくはないか。

そのためにも我々にできることがあれば、市とともに一丸となって取り組んでいくので、具体的に何ができるのかをご教示願いたい。

**【回答 15】**

住民の声を直接国等に伝えることは極めて重要と考えます。これまであらゆるルートや新たな制度を創設しながら、医師確保に向けた取組を進めています。具体的には、現地視察で南相馬市を訪れた医療関係者等からの助言も踏まえ、ランニングコストも含めた補助制度のあり方も検討中しています。さらに、本日頂戴した皆様との協力体制の在り方についても検討してまいります。



**【質問 16】**

我々の声を直接国等に届けに行くことも可能ですし、資金面であれば、現在、協議を進めているローカルファイナンスの活用も考えられます。

まずは我々と市と一緒に何ができるのか。これまでなかなか結果が出せない状況が続いているので、そこを何とかしたいとか考えています。

**【回答 15】**

ありがとうございます。私はこれまで霞ヶ関に足繁く通いながら、市民の皆様の声を国に伝えてまいりましたが、皆様の声を直接伝える、話し合える機会も重要と考えますので、今後そのような機会を設定するよう努めてまいります。

以上